

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はわかりやすく実践しやすい内容になっており、利用者も職員も共に唱和し一日一日を大切にしながら生活していただいている。	開設当初に作り上げた理念を各棟に貼り出しており、毎朝、利用者と職員と一緒に唱和している。内容も職員、利用者だけでなく、地域の方にとってもわかりやすく、実行しやすいものとなっている。新人職員へは入職時に研修を行い、事業所の柱となる理念について説明を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	障害者のグループホームもでき更におつきあひも広がり地域ぐるみで日常的に交流をしている。町内の一員として回覧板をはじめ町内行事に参加している	利用者は個人単位で町内会に加入し、地域とのつながりが深まるような仕組みにしており、回覧板や運営推進会議等を通して、地域行事の情報を得てパーベキュー大会や賽の神等の行事に積極的に参加している。また、事業所の駐車場を近所の子どものためのラジオ体操の会場に提供したり、町内の子ども会と合同で夏祭りを開催するなど、日常的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解はしていただいているがクレームもいただいている。認知症の人としての隔たりがなくありがたく受け止めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者体調不良等につき数名の出入りがあつたため会議を通しサービス内容評価の取り組み等を報告しながら理解と協力をいただいている。	会議には、利用者代表、家族代表、町内会長、地域住民代表、妙高市担当者、理事長、施設長、管理者が参加しており、2ヶ月に1度開催し運営状況等の報告を行っている。10月の長野地震後の会議では防災マニュアルの見直しについての提案が出され、今後検討する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	妙高市介護ネットワークの開催・市の事業委託・会議等への参加により積極的に情報発信をしているため連携は密である。	市職員が運営推進会議のメンバーでもあり、また、妙高市主催の介護ネットワークへも参加していることもあって、日頃から連携のとれる関係にある。生活保護のケース等、困難事例は地域包括支援センターや市と連携して対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的な内容は全体研修で学び介護職員としての認識を高め日々のケアに努力している。	年に1度、全体研修の中で身体拘束に関する研修を実施している。現在、ベッド柵を4本使用し身体拘束を実施している利用者が1名いる。	身体拘束をしないケアの実践に向けて、本人と家族の意向の確認も含めてアセスメントを繰り返し行い、やむを得ず実施する場合の緊急性・非代替性・一時性に本当に該当するかどうか、拘束を回避する手段が確保できないのかなどを十分に議論を尽くすことが望まれる。心身の状況、リスク、事業所のできることを本人、家族へ十分に説明して納得が得られるように取り組んでほしい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修に位置付けており時々のカンファレンスにおいて「今行っている内容」を職員全員で点検をしている。	年に1度、全体研修の中で虐待に関する研修を実施している。また、支援の場面において不適切な言葉かけが行われないように配慮しており、必要に応じて施設長や管理者から指導を行うなど、不適切な言葉づかいが虐待につながらないように注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用されている利用者もおり必然的に研鑽に努めている。又外部研修にも参加し研鑽している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をしご家族からも意見等をお話いただいている。又退居時の対応についてもご家族と十分な話し合いを重ねフォローも行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の家族の面会により事細かく状況をお伝えし家族からも感じていることなど伺っている。又外部への連絡が必要であればその都度つなげている。	面会時には家族へ積極的に声をかけ、場所を変えて話を聞くなど、意見が言いやすい環境を整えている。利用者からは担当職員が個別に話を聴く場面を作っており、ユニット間の移動を希望した利用者の気持ちや意見を尊重して実際に移っていただく対応を行うなど、実際の生活場面や運営に結び付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が個人的に申し出があればいつでも応じている。又委員会もあり自主的に展開できるようにバックアップしている。	平成26年度は、ケアの統一を図ることを目的として、新人職員、現任職員から日々の支援についてなど様々な意見を聞き、実践に結び付ける場を設けている。毎月の職員会議では活発に意見交換がなされており、会議の場以外でも施設長や管理者は、希望があれば個別に面談の機会を設けるなど、全職員の意見を吸い上げるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境づくりに常に努めている。給与水準については給付額の中で最大限の努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は積極的に参加している。全体研修も内部研修も内容の濃いものになっておりサービスの質を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	妙高市介護ネットワークにより同業者との交流研修の場となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族から情報をいただき困っていること不安なこと要望などを聞き安心して過ごされるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや不安なことを聞き話し合いながら良好な関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今何を一番必要としているかを見極め他のサービス利用も含め支援するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中からできることを一緒に行い共に暮らす者同士の関係を築くよう努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を聞きながら家族の協力を頂き外出等をしている。毎月の近況報告でもお知らせし協力を頂きながら支援している。面会に来ていただいたときに様子を見て頂いている。	毎月、担当職員が近況報告書を家族へ送り、本人の生活の様子を伝えている。入居後も家族の協力が必要なことを契約時に説明し、外出支援等を依頼しており、また、介護者から入居に至るまでの経緯をじっくりと聞くことで、家族の思いを知り、共に支えていく関係が作られるようにしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら馴染みの理髪店へ出かけられている。面会に来られた方と楽しく話ができるよう環境作りに努めている。	親戚や兄弟とは、家を訪問したり事業所へ遊びに来てもらうなどしている。自宅近くの美容院や床屋を利用したり、家族と一緒に墓参りに行くなど、家族の協力を得ながら関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や相性を見極め、お互いに支えあうよう支援している。入居者間でのトラブルや孤立にしそうな時はさりげなくフォローしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の不安に配慮し、気軽に相談して下さるよう伝えている。他の施設に移るときは事前に、様子を見に行っていたり情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。意思疎通が困難な方は、家族から情報を聞かせていただくよう努めている。	担当職員が中心となって、日々の生活の場面から利用者の意向を汲み取るように努めている。知り得た情報は連絡ノートや毎日の申し送りにて2つのユニットの職員間で情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活する中で折に触れて本人や家族からこれまでの生活や暮らし方についての情報を把握するよう努めている。	自宅など本人の生活している場を訪問してそれまでの暮らし方を具体的に把握するとともに、家族や入居前に利用していた居宅サービス事業所等からも情報を得ることで本人の全体像の把握に努めている。フェイスシートの見直しを行って、医療面の情報や本人の意向なども適宜確認している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で引継ぎ日誌等で日々の変化を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い本人家族看護師職員等交え話し合い意見を聞き見直しを行いながら現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントやモニタリングと評価は、計画作成担当者と担当職員が行っている。毎月の職員会議の中で個々の利用者の状態について両方のユニットの職員から意見をもらっている。介護計画の見直し時期には家族も含めてカンファレンスを実施している。	利用者のための介護計画であることから、利用者からもカンファレンスには出席してもらい、計画作成のプロセスに参加していただく中で内容の説明と同意をもらうことが望まれる。利用者の意向・意見を引き出す工夫や利用者にも理解していただける説明の工夫にも、今後期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子を記入し職員間で情報を共有しながら常に話し合いケアに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況その時のニーズに対応し柔軟な支援やサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加し暮らしを楽しんでいる。ボランティアの協力を得て安全に楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に往診又は受診していただき診察前に体調変化等連絡し看護師に相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族の希望に合わせて入居以前のかかりつけ医を継続することができるが、利用者や家族の状態によっては必要な病院を紹介するなどの支援を行っている。受診支援は基本的に家族としており、状態変化時には医師宛に情報提供書を作成している。医師の協力もあり、普段から電話で状態を報告して指示をもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康状態を看護師に報告し、診てもらい判断を仰いでいる。相談の上、必要に応じて受診等につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院と同時に病院関係者と情報交換や相談に努めている。お見舞いに行った際は看護師等に話を聞く機会を持ち関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針について家族によく説明しているし意見も伺っている。又、職員間においても話し合いの場を設け、共通認識を持ちチームケアに取り組んでいる。	看取り支援の方針やマニュアルが作成されており、入居時には家族へ説明を行っている。状態変化時にもその都度、家族の意向を確認しながら事業所としてできることを説明したうえで、重度化や看取りの支援を行っている。職員間でも研修や話し合いの機会を随時設けており、方針の共有がなされている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い対応できるように努めている。救急法の研修も行っている。	年1回、消防署主催の救急救命講習に全職員が参加し、心肺蘇生法や止血、窒息時の対応といった初期対応の方法について勉強している。日々の利用者の状態を見ながら、起こりうる急変時等を予測し、その都度、職員間で話し合い対応方法を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月利用者と共に避難訓練を行っている、又町内との合同防災訓練も行い協力体制を築いている。	毎月様々な災害を想定した訓練を実施しており、地域住民と合同の防災訓練は年2回実施している。夜間想定訓練は実際に夕方薄暗くなってからの時間に実施するなどより実践的な訓練を実施している。町内防災組織には、日中と夜間それぞれの事業所避難対応の担当住民がおり、先日の長野地震の際は担当住民がいち早く駆けつけてくれるなど、地域住民との協力体制が築かれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応をするよう努めている。	居室の扉は閉める、トイレ等の誘導はあからさまにしないなど、職員は普段からプライバシーに配慮した支援に努めている。方言をコミュニケーションの方法の一つとして活用しており、個々の利用者の誇りを損ねないように場面に合わせて使い分けるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で自分の思いや希望を表現できる方には自己決定できるよう働きかけている。意思表示のはっきりしない方は表情や言葉の中から思いを理解するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごせるように努力している。安全面等が優先しがちになるが希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思表示のできる方は好きな洋服をきたりおしゃれができるよう支援している。好みを知っている家族が用意してくれたもので身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように努めている。職員と一緒に野菜の下ごしらえや盛り付け、片付け等して頂いている。	委員会が中心となって献立を作成しており、食材は近くのスーパーへ利用者と一緒に行き、食事前の準備や後片付けも利用者と職員が行っている。誕生日には利用者の意向を反映させた食事を提供して食事を楽めるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー委員会でバランスの良い食事メニューを考え水分量にも気をつけている。個々の状態に合わせ、とろみを付けるなど摂取しやすいものを準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけをし必要に応じて介助している。週に2回薬品による義歯洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の時間や習慣を把握し仕草や表情からタイミングをつかみトイレで排泄するように努めている。	トイレでの排泄を基本としており、日中はリハビリパンツではなく、布パンツを着用してもらうなど、個々の利用者の状態に合わせて支援を行っている。職員は個々の利用者の表情やしぐさから、サインを読み取り、さりげなく支援をするように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷たい牛乳を獲るようにしている。又食事に野菜や繊維質を多く取り入れヨーグルトや寒天を使ったメニューで予防に取り組んでいる。出来るだけ体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を希望される方決まった時間に入浴される方個々に合わせた支援に努めている。又入浴を楽しめる様にタイミングをつかみ声かけ誘導している。	入浴時間は基本的には午後としているが、利用者の希望や心身の状態に合わせて入浴ができるよう、入浴日や時間については柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の様子を見ながら、一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて午睡の声かけ夜間も安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をすぐ見られるところに置き理解に努め服薬の支援と確認に努めている。症状の変化があった場合はかかりつけ医に連絡している。服薬時、飲み残しがないようにご本人に手渡し、飲むのを確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に聞きながらできる事をお手伝いしていただいている。誕生日は好きなメニューでお祝いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外での日光浴や散歩に出かけている。四季折々に両棟合同でドライブに出かけたり、外食を楽しんでいる。ご家族の協力もいただいている。	利用者が一人で散歩に出かけたり、または職員と一緒に出かけるなど、本人の状態に合わせて、普段から利用者が自由に外出できるように支援している。また、委員会が、市の協力を得て大型バスを借り普段は行けない海や高田公園などへのドライブを計画し、実践している。外出の行事はポスターを作成して利用者へ知らせている。	行事や外出に関する委員会には利用者からも参加してもらおうなど、利用者の希望を確認する機会を設けることが望まれる。普段の生活の中でキャッチした情報から本人の意向を引き出す工夫をし、利用者の希望に沿った外出支援がなされることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持つことの大切な事は理解されているがお金を管理出来る方は少ない。希望がある時は立て替え払いで対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったときは電話や手紙をやり取りできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は対面キッチンとなっておりより家庭に近い環境である。季節に合わせた掲示物や入居者の作品を飾り、居心地よい空間作りに努めている。又、トイレに棚を作り。備品を置いている。	事業所内の乱雑になりがちな箇所には棚やカラーボックスを置くなどして、整理整頓をしている。床暖房や手作りの加湿器等で室温や湿度に配慮しており、居心地よい空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごされたり一人で過ごす椅子を用意しそこで音楽を聴いたり本を読んだりして過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを置いたりご家族の写真や飾り、居心地よく過ごしていただけるように工夫している。	これまで使用していた家具や愛着のある物を持参してもらおうように家族へ働きかけている。衣紋かけを置いたり、家族からの手紙や写真を飾るなどして、居心地良い居室となるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	手摺りをつけたり、段差には目立つテープを貼ったり安全に気をつけ自立した生活を送れるよう努めている。		